

運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 研究報告会 「第2回 AIROレポート」開催のお知らせ

- 日時：2026年4月22日（水）13:00～16:00（日本時間）
- 会場：オンライン配信（Zoomウェビナー）
- 参加料：無料

ご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

一般財団法人 運輸総合研究所の業務につきましては、平素からの格別のご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、2021年4月より活動をはじめ、5年目を迎えますアセアン・インド地域事務所（AIRO）の研究報告の場として、「第2回AIROレポート」を開催することと致しましたので、ご多用中のところ誠に恐縮に存じますが、万障繰り合わせのうえ、ご臨席いただきたくご案内申し上げます。

敬具

一般財団法人 運輸総合研究所 会長 宿利 正史

概要

運輸総合研究所は、2021年4月、タイ・バンコクにアセアン・インド地域事務所（AIRO）を開設し、これまで、タイ、ベトナム、インドネシア等において関係省庁・関係機関とのワーキンググループを立ち上げ、定期的かつ継続的な議論を重ねてまいりました。さらに、ハイレベルでの重層的な人脈構築を進めるとともに、2025年にはインドにおいて2度にわたりイベントに参加するなど、同地域における活動の深化・拡大を図っております。

東南アジア地域及び南アジア地域では、著しい経済成長を背景に、鉄道・港湾・空港などの交通インフラの整備、効率的な物流システムの構築、主要都市における道路運送事業の高度化や新モビリティの活用などが重要な政策課題となっています。また、観光・人的交流のさらなる拡大が期待される一方、地域が主体となり地域に裨益する観光の実現や、文化遺産の保全と観光振興の両立など、持続可能な観光の実現も大きなテーマとなっています。

これらの成果については、これまでシンポジウム等を通じて一部発信してまいりましたが、AIRO開設から5年目を迎えるに当たり、アセアン・インド地域の交通・観光情勢に関心を有する皆様に広く情報共有を行う場として、本年も「第2回AIROレポート」を開催いたします。

お申込み

下記のURLよりお申し込みください。折り返し確認メールを送信しますのでご一読ください。

<https://krs.bz/jterc/m/airosympo2>

※お申込みは直前まで受け付けております。

※撮影・録音は禁止させていただきます。

お問い合わせ：

一般財団法人 運輸総合研究所（担当：神戸、岡田、竹下）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19（UD神谷町ビル）

TEL：03-5470-8415 FAX：03-5470-8401

E-mail：collo2@jttri.or.jp HP：<https://www.jttri.or.jp/>



運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 研究報告会
「第2回 AIROレポート」

- 日時：2026年4月22日（水）13:00～16:00（日本時間）
- 会場：オンライン配信（Zoomウェビナー）



○プログラム ※4月16日一部変更

【開会挨拶】

13:00～13:05 宿利 正史 運輸総合研究所 会長

【AIROの活動状況のご紹介】

13:05～13:15 富田 晃弘 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 主任研究員 次長

【研究発表】 AIROにおける研究調査活動の報告

13:15～13:40 都市鉄道を有する高速鉄道駅の周辺開発スキームに関する調査

高松 俊介 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 研究員

13:40～14:05 インドネシア、マレーシア、フィリピンにおける持続可能な観光の実現に向けた調査

岡田 良子 運輸総合研究所 研究員

中村 政照 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 研究員

14:05～14:25 インドネシアを中心とした海ASEANにおける物流の改善に向けた調査

富田 晃弘 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 主任研究員 次長

高島 稔 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 研究員

14:25～14:50 ASEAN・インド地域における道路公共交通に関する調査(ジャカルタ・クアラルンプール)

竹下 博之 運輸総合研究所 研究員

14:50～15:15 ASEAN・インド地域におけるBRTに関する調査

高木 晋 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所 研究員

【質疑応答】

15:15～15:45

【総括及び閉会挨拶】

15:45～15:55 奥田 哲也 運輸総合研究所 専務理事

アセアン・インド地域事務所長・ワシントン国際問題研究所長

『都市鉄道を有する高速鉄道駅の周辺開発スキームに関する調査』

【概要】

アセアン・インド地域では鉄道需要が加速すると見込まれており、タイではバンコク・チェンマイ間高速鉄道やレッドライン延伸等、日本企業が受注を目指しているプロジェクトも多い。また、両路線が結節するクルンテープ・アピワット中央駅においては、周辺都市開発事業が進められている。

今回の発表においては、バンコクにおける事業の進捗状況とともに、ベトナムやインドの高速鉄道駅（予定地を含む）における、都市鉄道や都市開発の状況について整理し、持続可能な海外鉄道支援のあり方について報告する。

発表者

高松 俊介 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所研究員 <AIRO着任日> 2024年4月

<運輸総合研究所着任前の主な経歴・研究>

鉄道・運輸機構において主に整備新幹線の建設や都市鉄道新線調査に携わるとともに、海外鉄道技術協力協会において海外鉄道調査等に関わる。

<運輸総合研究所での主な研究>

AIROレポート「ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道におけるムンバイ地区の現状」の執筆や高速鉄道の整備スキームに関する調査を担当



『インドネシア、マレーシア、フィリピンにおける持続可能な観光の実現に向けた調査』

【概要】

世界の主要観光地ではオーバーツーリズム、文化財への負荷などの問題が顕在化し、国・地域により異なる課題への対応が急務となっている。こうした状況を踏まえ、持続可能な観光の実現に向けた実効性のある取組の整理と知見の共有を目的として行った、インドネシア、マレーシア、フィリピンの政策や課題等の整理結果を報告する。

発表者

岡田 良子 運輸総合研究所研究員 <運輸総合研究所着任日> 2024年4月

<運輸総合研究所着任前の主な経歴・研究>

国土交通省において主に運輸、観光行政に従事。

<運輸総合研究所での主な研究>

2025年度「持続可能な観光・人的交流の実現のための東南アジア地域・南アジア地域と日本の連携に関する研究調査」

2024年度「持続可能な観光の実現のためのASEANと日本の連携に関する調査研究」、

「地域観光産業の基盤強化・事業革新に関する提言（2023年（令和5年）7月）に基づく

「地域観光産業の見える化に関する検討委員会」



発表者

中村 政照 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所研究員 <AIRO着任日> 2025年4月

<運輸総合研究所着任前の主な経歴・研究>

網走市役所及び観光庁において観光行政に従事。

<運輸総合研究所での主な研究>

2025年度「持続可能な観光・人的交流の実現のための東南アジア地域・南アジア地域と日本の連携に関する研究調査」



『インドネシアを中心とした海ASEANにおける物流の改善に向けた調査』

【概要】

経済成長を背景に需要の拡大が見込まれるアセアン・インド地域において、世界のサプライチェーンの根幹を支える地域として物流の重要性が一層高まっている。同地域における現状や課題の把握を行い、対応方策を検討するため、これまでタイ・フィリピンで調査研究を行ってきた。今回の発表においては、「海ASEAN」（フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ブルネイ）における物流の改善、ASEAN域内の物流円滑化、さらには日本とのネットワーク拡大を目指し、インドネシアを中心に物流改善に向けた具体的な対応方策を報告する。

発表者

富田 晃弘 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所次長/主任研究員 <AIRO着任日> 2023年6月
<運輸総合研究所着任前の主な経歴・研究>

国土交通省において主に観光行政に携わるとともに、外務省経済局において経済調査及び在インドネシア日本大使館にて交通インフラプロジェクト支援に関わる。

<運輸総合研究所での主な研究>

AIROレポート タイの政権交代と交通政策への影響 - 「20パーツ均一運賃政策」と「コン・ラ・クルン・プラス政策」執筆や物流シンポジウム「インドネシアにおける効率的な物流の構築を目指して～海ASEANにおける物流の改善～（パート2）」における研究発表など。

発表者

高島 稔 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所研究員 <AIRO着任日> 2023年6月
<運輸総合研究所着任前の主な経歴・研究>

国土交通省において主に航空・港湾行政に携わり、空港、港湾、物流の開発等に幅広い経験を有する。

<運輸総合研究所での主な研究>

AIROレポート「レムチャバン港の現状と今後の取組」や「タンジュンプリオク港の現状と今後の取組」の執筆、物流シンポジウム「フィリピンにおける効率的な物流の構築を目指して～海ASEANにおける物流の改善～（パート1）」における研究発表など。

『ASEAN・インド地域における道路公共交通に関する調査(ジャカルタ・クアラルンプール)』

【概要】

道路公共交通及びモビリティプラットフォームについて、2024年度にバンコク、マニラ、デリーを対象とする調査を行い、交通手段間の統合の必要性を課題の一つとして示した。これを踏まえて2025年度は、交通手段間の統合が進んでいるクアラルンプール及びジャカルタを対象に、統合を支える制度・運営体制、これまでの取組や、統合手段の特徴等の比較を行った結果を踏まえ、他都市への示唆について報告する。

発表者

竹下 博之 運輸総合研究所研究員 <運輸総合研究所着任日> 2024年4月
<運輸総合研究所着任前の主な経歴・研究>

中部大学にて、タイ・バンコクを対象としたJICA/JST SATREPSプロジェクト「Thailand4.0を実現するスマート交通戦略」等に参画（2018年10月～2024年3月）。その他、運輸政策研究機構（現・運輸総合研究所）では、発展途上国における高速鉄道導入の可能性や、ASEAN地域の低炭素交通に関する国際研究プロジェクトに従事（2010年4月～2015年3月）。さらに、民間企業において、交通事業の動向調査や海外事業展開に関する実務経験を有する。

<運輸総合研究所での主な研究>

ASEAN・インド地域の大都市における道路公共交通サービスや新モビリティサービスにおけるその事業者や、国・自治体も計画・マネジメント体制、政策・KPI等の調査を担当。

『ASEAN・インド地域におけるBRTに関する調査』

【概要】

幹線公共交通の整備動向を把握する観点から、アセアン・インド地域における複数都市で導入・整備が進められているBRT（Bus Rapid Transit）について、バンコク、マニラ、アーメダバード、ジャカルタ、クアラルンプールを対象として最新の整備状況や利用状況、導入・運営上の課題について報告する。

発表者

高木 晋 運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所研究員 <AIRO着任日> 2023年4月
<運輸総合研究所着任前の主な経歴・研究>

1994年に運輸経済研究センター（現・運輸総合研究所）に入職し、総務部、国際部、企画部、コンサルティング部など各部門に従事。

<運輸総合研究所での主な研究>

ASEAN・インド地域の大都市における道路公共交通・新モビリティサービス